

「保健医療科学」  
第75巻 第2号 予告

特集：多様な主体によるプレコンセプションケアの推進（仮題）

プレコンセプションケア推進の展開と今後の方向性（仮題）	田中彰子
プレコンセプションケアの学術的動向と政策実装への課題（仮題）	前田恵理
若い世代の生活習慣の現状と課題（仮題）	清野富久江, 横山徹爾
都道府県におけるプレコンセプションケアの推進（仮題）	上田美穂
教育機関との連携によるプレコンセプションケアの取組（仮題）	河本倫子, 金重広輝
市区町村におけるライフステージを通じた支援の展開（仮題）	風間邦男
職域における健康支援の新たな展開（仮題）	川本和江

編 集 後 記

「保健医療科学」では、第68巻より第1号において、日本の公衆衛生分野の最新のトピックと国立保健医療科学院のそれらへの貢献を国際発信することを目的とした全文英文による特集を発行しており、本号はその8回目である。今回取り上げたトピックでは、現時点での状態を分析する「共時的」視点（DHEAT, ICD-11, たばこ対策, 障害者就労選択支援）、時間の経過に沿って分析する「通時的」視点（運動・身体活動施策, 歯科衛生士制度, 包括的性教育, 健康政策と経済産業政策の相互関係）のいずれかが用いられている。

これらの視点は通常、それぞれ独立に分析されることが多い。しかし、複数の「通時的」トピックを「共時的」に横断して分析すると、ある時点に一つのトピックで生じた変化と、別のトピックで同時期に起きた類似の変化とが対応しているといった現象を見いだすことがありうる。それらを分析することによって、日本の公衆衛生全体に影響を及ぼす要因を解明できる可能性がある。これまでの英文特集では様々な「通時的」トピックを取り上げてきたが、それらを「共時的」視点から改めて分析してみると、新たな発見が得られるかもしれない。

（公衆衛生政策研究部 武村真治）